

## 令和4年2月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の延長や、続く原材料・原油価格の高騰により、多くの業種において景況感は回復せず、2月期の景況DI値は、大きく悪化した1月期と同程度に留まった。

2月後半にはまん延防止重点措置は解除されたものの、その後も感染者数は高止まりしていることから、サービス業や商店街等においては、人流回復への期待感は少ない。

さらに、ウクライナ情勢による穀物・木材等の原材料価格や原油価格の更なる高騰が見込まれるとし、食料品や木材・木製品製造業、運輸業を中心に、ウクライナ情勢の影響を危惧する声が多く寄せられている。

### 山口県の主要指標 DI 値（令和4年2月末現在）

※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

#### 業界の景況

（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：51.3% DI値：▲48.8% ポイント

#### 売上高

（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、増加：8.8% 減少：45.0% DI値：▲36.2% ポイント

#### 収益状況

（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：51.3% DI値：▲48.8% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和4年2月末現在）

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲30 以上	▲30 未満

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲87.5	▲50.0	▲66.7	▲100.0	▲33.3	▲22.2	0.0	▲50.0
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製造業	全 体
0.0	▲37.5	▲80.0	▲63.6	▲54.5	▲28.6	▲100.0	▲47.9	▲48.8
								

## 特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	組合員の多くは、国際情勢により小麦価格が値上がりするのではないかと不安に思っている。また、原油高により包装資材の価格が上昇している。依然、土産菓子は低調のままであり、バレンタイン商戦も義理チョコ廃止の傾向もあり、また消費者の選択手段がインターネット、大型店、有名百貨店、手作りなど、多様化し、地方の菓子店にとっては年々厳しくなっている。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	新型コロナウイルス感染拡大のために学校・学年・学級閉鎖が相次ぎ、売上が大幅に減少。	パン・菓子製造業 下関市
	近海小魚の水揚げが極端に減少し、これを原魚材料としている組合員の一部は仕事がほとんどない状況。従業員の募集をしている企業は、人手不足に頭を痛めている。漁師の後継者不足で漁業の廃業が益々増えている。	水産食料品製造業 長門市
	コロナ禍の業況は、当組合員の業種によって変わらない組合員、季節的に厳しい組合員と分かれている模様。数字的な部分はわからないが、今年の冬はどの会社も前年とあまり変わらなかった様子だが、外国人技能実習生が減った分大変な様子。	水産食料品製造業 下関市
	1月から売上が減少。業況は現在も我が業界は原料不足・原料高騰が高止まらない上、在庫薄。今後第6波からの回復が鍵。	
	2月は、山口県のコロナ蔓延防止対策は解除されたが、飲食店営業の自粛活動に伴う全国的な米あまり現象による米等の農産物価格の下落により、売上高も大幅な下落となり大きな影響を受けている。ロシアがウクライナに侵攻し、原油価格が記録的に上昇するなど、国際的な資源不足が懸念されている。また、ウクライナは世界有数の穀倉地帯でもあるので、食料不足に伴う穀物価格の上昇も懸念されている。政府は、原油価格の上昇に伴う損失補填などを早急に進めると共に、食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となると思う。また、ロシアに対する国際社会と協調した対策が求められており、救援物資の提供も必要となってくると思うので、情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要と思われる。	精穀・製粉業
繊維工業	組合は、2月より新体制で業務を開始。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	建築・木材業界全体が低迷しており、地域の工務店は四苦八苦の状況と思われる。組合としての活動も皆無で、2月は稼働日数も少なく、仕事にならなかった。この度のウクライナ紛争で、ロシア材が入荷困難となれば、赤松材の不足で関連商品の高騰・品薄となるのは確実。	製材業・木製品製造業 岩国市

	前年と変わらない状況。	製材業・木製品製造業 山口市
	組合員の平均売上額は、令和2年2月に比べ20%の減少、コロナ禍の令和3年2月と比べ10%の減少だが、増加傾向の事業所と減少が続く事業所とが混在している状況。建材や住宅設備機器の一部で入荷出来ない物もあり、工事の遅れに繋がっている。木材価格の高値が続いており連動して、工務店もエンドユーザーに対する説明に苦慮し受注にも影響が出ている。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	山口県においては、新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が2月20日に解除となったが、都市部を中心に延長となった県も多く、コロナの第6波終息までにはまだ時間がかかる状況である。経済活動再開との掛け声は聞かれるが具体的な対策は示されず対応政策のみに終始している感は拭えない。印刷業界も、中国地区での情報交換では、長期に渡るコロナによる経営の悪化を訴える企業は多く、平均でも2~3割、中には5割近い売上減となり経営状態の悪化に歯止めがかかっていない状況がみえる。	印刷 下関市
	コロナ禍によるイベント、大会などの中止で、販売の低下は続いている。	印刷 山口市
窯業・土石製品	出荷量は、前月比84%、前年同月比109%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	まん延防止等重点措置が解除になっていない場所に住まいの方からの仕事の依頼については、まだ保留状態にある。他府県より急ぎの仕事が入った時の対応の仕方（LINEやメール・現地よりテレビ電話の活用等）を、今一度考えなければならぬ。	石工品製造業
	2月も市内の観光客はまばら。例年少ない時期ではあるが更に少ないように思う。売上については、小売りは前年比で大幅減。百貨店やギフトの卸売りは令和3年と変わらず。2月21日に山口県民割りクーポンが再開され、新型コロナウイルスの感染も減少傾向であるので、3月の県内外からの観光客に期待したい。このところ萩城下町エリアの萩焼販売店・カフェの閉鎖店舗や一時休業店舗が目立つ。観光客にも、しばしば指摘され心配もされている。3月以降、観光客が増えてきても、受入れ側がこの状況では、この先が非常に心配。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	新型コロナウイルスの影響で引き続きリモート面接を実施しているが、ベトナムも感染拡大でロックダウンしており、募集も困難、面接も延期になっている。合格した外国人技能実習生も入国がいつになるかわからないためキャンセルが発生してきた。特定活動中の実習生がワクチン接種を2回終了したので帰国し始めた。外国人技能実習生の入国が無く帰国ばかりで縫製業は困っている。	一般機械器具製造業 岩国市

	仕入価格が急に上昇しており、見積、受注価格との乖離が収益を圧迫しているが、販売価格への転嫁ができない状況にある。購入品の中には品薄、納期未定のものもあり、顧客への納期に支障が生じている。人材の確保は永年の問題である。即戦力を求めているが新卒はレベルが不適、ベトナム人技能実習生は能力面ではなく言葉の問題で受け入れが難しい。まん延防止等重点措置は2/20をもって解除されたが、消費マインドは低下の状況に変わりはなく、顧客の設備投資意欲の冷え込みが引き続いている。この先インフレ傾向になるだろうが、スタグフレーションになるとより厳しい状況になると危惧している。	一般機械器具製造業 防府市
	外国人技能実習生の入国が出来ず、派遣等で対応しているが安定的に確保することが難しく、人手不足から残業が増加するとともに、事業の縮小を余儀なくされており、企業からは早期入国と異動希望者の引き留め依頼が相次いでいる。幸いにも3月から入国の再開の目途が立ち、諸準備を進めているが、1日の入国数が5千人に制限されているため先が見えないのが実情である。	一般機械器具製造業 宇部市
	ロシア情勢を受けて、原材料価格高騰がどこまで続くのか、不安要素が増している。	
輸送機器	鉄道車両関係の現状は順調に推移している。鉄道車両生産は国内業者の来年度以降の新車両計画は減少見通しで、それに伴い受注高も減少が見込まれる。半導体は、例年の2~3倍の受注量で引き続き好調。2~3年後も順調に推移の見通し。	鉄道車両・ 同部品製造業
卸売業	海苔及び海産物の順調な入庫があり、令和3年2月より、また、令和4年1月よりも倉庫売上が増加している。新型コロナウイルスが増加する中ではあるが物の流れは、そこそこ順調に思える。	乾物卸売業
	魚の入荷はあるが価格は下げ止まりである。	生鮮・魚介卸売業
	鉄鋼1・2次卸、屋根材の需要が増している。	各種商品卸売業 山口市
小売業	1月末からのオミクロン株の感染拡大の影響で前年比90%の店舗がほとんどだが、二桁近い伸びをしている好調な店舗もある。蔓延防止措置が発令され外出や買い物をする回数が減ったことが売上減少や客数減少に影響していたので、解除によって売上が伸びることに期待している。お客様の購買行動においてもメーキャップ等の肌に触れることへの抵抗感で断られるケースがあり、客足が遠のいている理由でもあるが、お客様感謝デーやポイント還元など特売日に来店する傾向が強くなってきているように思う。	化粧品小売業
	2月は寒い日が続き、外の営業活動も制限されて、売上は前年同月比で90%位。	機械器具小売業

	新型コロナウイルスの変異株、オミクロン株の拡大で、来店者数が減少した模様。	各種商品小売業 光市
	前年同月比では約 95%の売上の微減、前々年比では約 66.3%の売上である。2月20日まで新型コロナウイルス蔓延防止措置がとられた影響もあり、外食の来街者が先月に続き減少したままであり、駐車場売上も先月同様減少となった。貸しホールについては、大ホールにおける展示等の申込みもなく、売上減少のまま。	各種商品小売業 周南市
	1月の売上は対前年比 15%の増加。(前年はコロナ感染拡大影響と降雪影響で月前半が非常に厳しかった)。2月は2/27時点、まん延防止措置や市内での感染者急増で、前年比マイナス 20%程度と厳しい売上となっている。空き店舗には市内企業が新規加入することが決定、3月末を目途に営業開始する予定。	各種商品小売業 萩市
	2月の前年比供給高 105.4%、来店者数 99.0%。累計は、供給高 99.0%、来店者数 96.3%。下関市のコロナ感染者数が 100 名前後で推移しており、その影響もあり店舗での供給高が伸びている。来店者数は伸びていないので、外食を控えているためと思われる。	各種商品小売業 下関市
商店街	まん延防止等特別措置が延長になった2月は、1月からの延長でほぼどん底の状態。世間のムードが収束に向かわなければ小売商業の回復が望めない。支出をできるだけ削減して踏ん張るだけである。また、影響を受けるのが遅かった業種(ぜいたく品)ほど、回復が遅くなっている傾向がはっきり見える。家族経営は踏ん張れても、従業員を雇用している中規模店舗が厳しい。	岩国市
	まん延防止措置は解除されたとはいえ、公共の施設使用、イベント等は停止状態で、寒さも加わり人の流れは非常に悪い。	宇部市
	2月は山口県の新型コロナウイルスのまん延防止措置で、来客数も少ない。入学・卒業関係を除き各店厳しいと言われる。「まずは制限が解除されることが一番」と店主は話す、その先はあまり見えていないようである。商店街商品券の好影響が2月末まであるので、多少の期待はある。	萩市
	新型コロナウイルスの流行により商店街の人通りが激減している。まん延防止等重点措置が解除されても、下関市のコロナ感染者の増加の報道により、買い物を控えているのではないと思われる。	下関市
サービス業	2月も山口県内のコロナ感染者が多く、濃厚接触者で自宅待機も多く、その関係でキャンセルが多かった。	美容業
	まん延防止等重点措置、寒さ等で客足が減少している。	理容業

	今年も「令和3年度自動車特定整備業実態調査結果」が日整連より公表された。この調査は、自動車整備業の現状や経営状況の実態を把握し、業界の発展につなげるため実施されているもので、総整備売上高が5年ぶりに減少した。特に、ディーラーのみ減少しており要因は分からないが、これまで好調に推移してきたことからが気になるところとなった。また、作業別では、「事故整備」が昨年に続き減少幅が大きく1兆円を割り込んだ。これは、先進安全装置等の急激な普及によるものと思われる。	自動車整備業
	オミクロン株の影響でお休みの会員が多く3月の売上に影響が大きい。	スポーツ・健康教授業
	まん延防止等重点措置により、人の動きも冷え込み、業界においてはさらに厳しい月となった。	普通洗濯業
	2月の営業自粛により、売上は大幅に減少。営業再開後も飲みに行く人は、まだまだ少ないと感じている。	飲食業
	令和3年の2月の売上の50%程度。まん延防止特別措置の影響を受けている。	旅行業
	令和3年2月に比べ売上額106%、宿泊人員99.1%と昨年並みであるが、令和3年2月もGoToトラベルが中止となり大きく減少していたため、比較にならない。コロナウイルス感染症の影響のなかった令和2年2月と比べると売上額44.4%、宿泊人員44.7%と非常に厳しい状況である。	旅館業 山口市
	入浴者数が前年同月比20%の減少。売上高は23%の減少。まん延防止等重点措置による施設利用者の急激な減少の結果と思われる。1月の利用者が前年同月比で20%増加したのに対して大幅な減少である。さらに原油価格の上昇により加熱する燃料費が大幅に増加したので、やむなく休業日を1日増加し対応した。	旅館業 長門市
	各種支援事業の停止と、まん延防止措置の影響により、特にレジャー客が鈍くなり、団体旅行もほぼ取消の状況である。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請149件(当支部132件)、前年同月151件(同128件)。太陽光発電への申請29件(前年36件)、オール電化申請64件(前年94件)。LED街路灯への切り替え・新設申請27件(前年12件)であった。	電気工事業
	年度初めの4月から5月迄は更に工事量が減少するが、その後は回復するものと見込まれる。各種助成措置の利用或いは、助成措置を受けずに社内の志気を上げて乗り越えていきたい。	左官業
	令和3年度入札はほぼ終わったが、令和2年度より少ない発注量であった。	管工事業

	<p>オミクロン株の急激な感染拡大により、2月21日まで全県下が「まん延防止等重点措置」となった。解除後の回復に相当な期間を要することも推測されている。本業界では、年度内の発注もほぼ終わり、令和4年度の土木工事については3年度並みの予算が計上されるとの情報を得ている。上関大橋の補修工事が、夜間に実施されているが、また、当分の間を要するとの情報である。</p>	<p>一般土木工事業 柳井市</p>
	<p>2月の受注高は、対前年同月比334.1%。令和3年度の累計では、対前年比103.3%。</p>	<p>一般土木工事業 萩市</p>
	<p>第4四半期（令和4年1月～3月）は、ほぼ前回と同様と考える。建設業界は1ヶ月毎の比較は難しい。軽油等の値上がり収益に影響している。</p>	<p>一般土木工事業 長門市</p>
	<p>原油価格の高騰で瓦メーカーは再度の値上げの動きを見せている。4月以降、販売価格のアップを図らねば、収益のダウンは避けられない状況になってきそうである。</p>	<p>屋根工事業</p>
	<p>現状は仕事が確保出来ているものの、小規模工事が多い。材料・副資材の価格高騰が続き、価格が安定せず、見積価格を出すのに苦慮している。不安定ながらも次年度に向けて見積案件が増えてきた地域もあり、今後に期待したい。</p>	<p>鉄骨・鉄筋工事業</p>
運輸業	<p>新型コロナウイルスのオミクロン株の感染者減少の兆しは見られず、国内向け輸送は減少、輸出関係は横ばいとなり、対前年同月比で輸送量が40%減少している。輸送運賃は横ばいであるのに、燃料価格が上昇しており、アンバランスな月である。運転者の高齢化により輸送範囲も狭まり、稼働率が低下している。燃料費は5.50円の値上げ。軽油引取税は、何とかならないだろうかとの声が多い。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下松市</p>
	<p>依然として海外からの半導体、部品調達に支障が出ており、自動車関連においては稼働停止になるところもある。輸送取扱高は前年並みだが、コロナ不況以前比では相当な落ち込みである。ウクライナ情勢の余波もあり、燃料費は再び高騰基調となっている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
	<p>運送については、関東地方への寒波到来を原因として塩化カルシウムの輸送が大幅に伸びているなど、季節物の輸送が増大している。また、倉庫保管案件においても雑貨小物等が伸びているようである。新型コロナウイルスの感染者・濃厚接触者がでているが、物流という業務形態上テレワークができない業務が多いので、一時的な人員不足に陥っているところもある。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲5.9%（令和4年1月1日～令和4年2月20日分）。1月1日～31日分は+8.7%、2月1日～20日分は▲27.1%。令和3年1月分は令和2年1月分より▲59.6%と大幅に落ち込んでいたので、前々年度比では、それぞれ ▲60.9%、▲56.1%、▲68.2%になる。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。1月分については、周南▲2.5%、下松+33.5%、光▲4.5%、防府市地区は+8.6%で、組合員の全域では+7.2%、地区外（員外）+17.9%、合計+8.7%（+677千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上昇し（前月730\$/トンが今月742.5\$/トン、前年557.5\$/トン）、輸送用バンカーC重油も上昇（前月644\$/トンが今月743\$/トン、前年462\$/トン）。為替は円安（前月114.88円/\$が115.85円/\$）。燃料単価は前月より+1.7%上がった。前年2月比+21.9%であり、たいへん厳しい状況。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。コロナ感染発生の影響は大きく、特にまん延防止となった2月1日から20日は、前年よりもさらに減少する事態になった。まん延防止は解除されたが、感染が収束したとは思えず、事業継続の目途がたてられない、たいへん厳しい状況。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>2月は、対前年比ほぼ同量の取扱高であった。依然としてコロナ禍だが、業務においては現在のところ順調に行われている。</p>	<p>港湾運送業 山陽小野田市</p>
<p>その他</p>	<p>2月は、1月の状況と変わらず外国人技能実習生の入国に新たな展開もなかった。待機中の実習生については、徐々に渡航の諦めを申し出る者もあるが、熱意のある実習生もいて、監理組合としては送り出し機関とのやり取りを密に行っている。3月に入り入国の人数の緩和と共に技能実習生が入国人員の中に含まれることにより、徐々に事業所とのやり取りも慌ただしくなり、今回は期待を寄せている状態である。</p>	<p>介護事業</p>